

マングローブ林隣接内湾域に生息するカニ類(主にタイワンガザミ)  
の資源生態に関する研究 (要約)  
(マングローブ林の水産資源維持培養の効果に関する研究)

佐多忠夫・島袋新功

1. 目的及び内容

本研究は、マングローブ林水域及び隣接内湾域における有用水産生物、特にカニ類の資源生態を明らかにすることを目的とし、その一環として特にタイワンガザミを中心とした資源生態調査を行い、カニ類の漁業資源の維持培養および有効利用について検討する。以下その研究の要約を述べる。

2. 要約

調査地は与那城村の金武湾海域であり、当海域を漁場とする与那城村漁業協同組合にて、カニ類の漁獲状況調査・甲幅測定及び稚ガニ調査を行った。

与那城村漁協の1990年の1-12月のカニ類の漁獲量及び金額は、9,809kg・7,394千円であり、その内タイワンガザミが9,203kg (93.8%)、6,599千円 (89.2%) と漁獲量・金額とも最も多く、ノコギリガザミ類(アミメノコギリガザミ、アカテノコギリガザミ、トゲノコギリガザミ)が392.5kg (4.0%)、613千円 (8.3%)、アザヒガニが86.5kg (0.9%)、140千円 (1.9%) となっている。単価では、逆にアサヒガニ、ノコギリガザミ類、タイワンガザミの順で、それぞれ1,614円、1,563円、717円となっている。漁獲量及び金額からみると、カニ類の中で漁業的に最も重要な魚種は、タイワンガザミとすることができる。

与那城村漁協におけるタイワンガザミの月別漁獲量は、6-12月の年後半で多く、特に10月、11月に多く、1-5月の前半に少ない。

与那城村漁協で漁獲される(1990年11月-1991年3月)タイワンガザミの大きさは、甲幅8.7-18.3cmであり、漁獲の中心は約12-16cmの範囲にある。

アミメノコギリガザミの漁獲サイズは9.8-20.8cmで、11.5cm前後と16.5cm前後にモードがみられた。

ノコギリガザミ類の中で、トゲノコギリガザミは沖縄島において、いままで沖縄市のみで確認されているだけであったが、今回の調査により、与那城村屋慶名及び宮城島海域でも漁獲されていることがわかり、分布域が広がった。

ノコギリガザミ類の中ではアミメノコギリガザミの漁獲が多い。

タイワンガザミの稚ガニの定着は12月上旬までみられた。